

<b>1 学校教育目標</b> 「生き抜く力」を育む指導をとおして、生徒一人ひとりの優れた資質を伸ばし、経済社会の発展に寄与する有意な人材の育成を目指す。	<b>2 本年度の重点目標</b> 「想いを力に～あたりまえ+α～」をスローガンとして、以下の7つの重点目標の達成を目指す。 ① 地域に愛され、地域に信頼される学校を作る。 ② 志を持ち、夢の実現のためにベストを尽くす態度を養う。 ③ 失敗を恐れずチャレンジする心を持った、心身ともに逞しい生徒を育成する。 ④ 規範意識や自尊感情を高め、自分と他人を愛する心を育む。 ⑤ 綺麗で安心な学校をみんなでつくる。 ⑥ グローバルな視点を持ち、地域で活躍できる人材を育成する。 ⑦ 地域と連携して高校魅力づくりを推進する。 ⑧ 校舎制による円滑な学校運営を実施する。
--	--

達成度 A : ほぼ達成できた  
 B : 概ね達成できた  
 C : やや不十分である  
 D : 不十分である

**3 目標・評価**

① 地域に愛され、地域に信頼される学校を作る。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○ボランティア精神の育成	地域や社会での活動による豊かな人間性の育成	ひまわり活動を通じて、復興支援活動によって、風化しつつある復興への意識を高め、豊かな人間の育成と社会貢献を目指す。	「ひまわりプロジェクト」を中心にボランティア活動の活性化を目指して、保健部と連携しながら、部活動や生徒会のような組織的な活動ができるよう職員の配置を考えたい。	A	本年度、杵島商業として最後のひまわりプロジェクトとなった。昨年の反省を活かし、暑さ対策や水やりの対策と生徒会を中心に活動することができた。昇降口前の花壇にも向日葵や花を植えることができた。	新白石高校商業科キャンパスとして、今後も活動を継続してもらいたい。大変な仕事であるが、命の大切さを生徒とともにわかり合える行事としてほしい。
	○地域との連携	学科の特色を活かした地域活動の実施	地域の企業と連携し、ビジネス実践に必要な能力を育成するとともに、企業で働くことの意義や企業のしくみを理解する。	「きしま学美舎」の活動や「課題研究」等の体験的、実践的な活動において、地域企業と連携し、地域の企業や専門家から話を聞いたり、体験的な活動を通して学ぶ。	B	「きしま学美舎」の活動は今年度最後の取り組みとなり、地域でのイベント販売や地元企業との連携により実践的な活動を展開することができた。また課題研究の現場実習や生徒商業研究発表会の取り組みにおいても地元企業との連携により、地元商店の課題や実情を学と共にビジネスに必要な能力を育成することができた。	来年度は、課題研究の講座の中に「地域活性化」という講座を設定しているため、さらに踏み込んだ内容で、新たな取り組みを検討しなければならない。
学校運営	○情報共有による相互理解促進	ホームページ等による情報発信	学校の様子、保護者や地域の方に発信するために、HPの更新頻度を上げる。また、杵商だけの内容充実を図る。	HPは週に1回更新するようにして、閲覧者に見てもらえるようデザイン等を工夫する。杵商だけでなく、地域の方にも見ていただけるように、職員が出張する機会などを利用し配付する。	B	学校WebサイトのURL変更に伴い、サイトの引越し作業を実施した。その一方で文化祭や卒業式だけでなく、課題研究発表会や進路ガイダンスなどで行事も頻繁に更新することができた。担当者が商業科キャンパスと普通科キャンパスの隔日勤務のため、「杵商だより」は学期に一回しか発行することができず、職員による配布もできなかった。	来年度は、職員数が減るが、今年度並みのWebサイト更新と学校だより発行を維持したい。

**② 志を持ち、夢の実現のためにベストを尽くす態度を養う。**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●学力向上	基礎学力向上	国語力、英語力、数学力向上のため小テストを実施する。	小テストの試験範囲を生徒に示し、朝自習を通して基礎学力を身に付けさせる。	B	基礎学力テストの結果については、向上している結果が出てきている。「朝の学びの時間」では、年間を通して定着を図ることが出来たが、難易度や実施についての問題点もある。	学び直し教材を導入して2年目となるが、学習環境や指導体制について、職員の共通理解を図っていかねばならない。また、教材についても選定を考えていきたい。
		教職員の資質向上	・わかり易い授業のための指導方法の工夫に努め、実践する。	・6月と11月を「授業力向上月間」として、他の教員の授業を2回以上参観し、意見交換を行う。	B	TT体制による教科指導をおこない、少人数指導を行っている教科では、きめ細かく指導が行えている。しかし、職員減により持ち時間数等で難しい面も出てきている。授業参観については、行事等で今年度実施できなかったが、TT体制での教員の打ち合わせや意見交換を行っていた。	今後とも可能な限り少人数指導を行っていくとともに、取捨選択していかねばならないと考える。授業参観は、来年度積極的に実施していきたい。全体研修会や教科別授業研究会などを行っていきたい。
教育活動	●志を高める教育	勤労観・職業観の育成と進路意識の向上	自らの夢の実現のために志を持ち、努力する気持ちがあると答える生徒を95%以上とする。	進路ガイダンスや外部講師による講話などを企画し、自ら考えさせる時間や場面を設ける。	B	1・2年とも情報ビジネス科の生徒が将来を描かず、全体として努力する気持ちがあると答えた生徒が92.3%にとどまる。ただ、進路の掲示物を見たり、進路資料室の活用など増えてきており、進路指導の取り組みが刺激を与えてきている。	「世の中ってまんざらでもない。大人って結構素敵だ。」と思ってももらえるようなお話をできるだけ多く聞かせたい。
		個々の生徒が夢や目標を設定し、実現に向けた取組の推進	進路決定100%を目指す。	基礎力診断テスト、適性検査等の実施により、自分の力や足りないところを理解させる。そのうえで、作文・面接指導、特課等を計画しながら夢実現のための方策を施す。	A	全員の進路先が決まり、夢や目標の実現に向けて新年度のスタートを切らせることができた。	週1回設けられている学年会のうち毎月何週間かの学年会を進路と共通理解を図るための会にしてもらいたい。
		キャリア教育の充実	・3年間を見通したキャリア教育を推進し、職業観や勤労観を育成する。	教科「商業」の授業や外部講師の講義・学校行事等において、学習の深化を図り、社会で求められる人材像を理解させる。また、ビジネスマナーやコミュニケーション能力、ビジネススキル等の社会人基礎力を身につけさせる。	B	社会人講師や専門学校講師による講話などを通して、職業人として必要な知識・スキルについて育成するとともに、各種進路ガイダンスや進路啓発事業、各種学校行事・各学科の教科指導等において職業観や、勤労観、社会人基礎力などを身につけさせることができた。	各学科やコースの特色を出せるような取り組みや、個々の生徒の個性や志望動機に応じたきめ細かい指導を更に進めていきたい。

**③ 失敗を恐れずチャレンジする心を持った、心身ともに逞しい生徒を育成する。**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	挑戦する態度の育成	【1年】1つでも多くの資格を取得する	【1年】自分自身の目標点数を設定させ、見直しを持った学習をする。	(1年)B  (2年)B  (3年)A	(1年)検定の指導については、担当教科の先生に任せきりになってしまったが、生徒たちはそれぞれ資格取得に向けて先生方のご指導の下努力し、結果を出すことができた。 (2年)無遅刻、無欠席の生徒は全体の23%、遅刻無しは70%、欠席無しは34%であった。全体的に、底上げが必要。 (3年)何事にも人任せにせず、自らの考えを言えるようになった。相談することで行動に移すことができるやりの感覚を感じることが出来た。3年生104名全員進路が内定した。	(1年)担当教科のみでなく、学年としても意識向上のための取り組みを行う。 (2年)進路実現のためには、日々の規則正しい生活を意識させ、遅刻、欠席をしないよう、学年集会、ホームルーム等で常日頃から指導していく。 (3年)すべてを指示せず、物事を与え考えさせる時間を与えることで行動に移すことを実践することが出来た。
			【2年】無遅刻、無欠席を目指す	【2年】日々の規則正しい生活を意識させる。			
			【3年】「自分がやらねば誰がやる！」の気概と自主性を育てる。	【3年】職員が積極的に成果を評価することで、「やれば出来る」という精神と自信を育て、次の挑戦へとつなげる。			
●健康・体づくり	望ましい食習慣と身体の自己管理能力の育成	朝食摂取率を90%にする。正しい知識のもと、心身共に健康で過ごすことができるようにする。	毎月発行の保健だよりを配布時に一読する時間を設けたり、個人面談を実施することで健康指導を行う。	B	健康であるために食事をしっかりとることがとても大切と考えている生徒が93%(3年生)おり、朝食についても摂取していると考えられる。昨年度に引き続き歯科保健の指導に特化した健康指導を行うとともに、長期休業後の個別指導を積極的に行った。個別指導をすることで健康状態を知る生徒も多く、健康に関する意識が低いことが分かった。	治療が完了するまで引き続き個別指導をする必要がある。	
		●心の教育	メンタルケアの充実	職員間及びSC等とも生徒の情報を共有し、迅速に対応できるようにする。また、生徒自身が問題を解決できる力を育成する。	A	年度当初と夏季休業後に担任面談を実施し、生徒の実態把握と生徒の抱える問題の早期発見、支援につなげていった。SC演習で自己理解、他者理解が深まった生徒が多くみられた。	継続的に個人面談の実施。SC演習などコミュニケーション力を向上させる活動を年1回で実施。

**④ 規範意識や自尊感情を高め、自分と他人を愛する心を育む。**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	人権教育と情報モラル教育の充実	ネット社会の危険性を理解させる。	提供資料やDVDなどを活用し理解させる。	A	ネットに関する問題を指摘されることが少なくなった。研修や生徒の意識の向上が感じられた。	今後も研修などの研鑽を積み生徒の意識向上が必要である。
		思いやりの心の育成	互いを尊重し、自他を大切に思いやりの心を育成する。	日々の授業でペア学習やグループ学習を積極的に組み込むことにより、コミュニケーションを図る場面や活動を積極的に取り入れる。	B	人間関係をうまく築くことができず、悩みを抱える生徒が多くみられる。まだまだ十分とは言えないが、ペアワーク等を通して、声掛けや話し方等学ぶ機会となっている。	継続的にペアワーク等を取り入れ、コミュニケーションスキルを向上させる。
	○生徒指導の充実	規範意識の向上	身だしなみの自覚時間厳守	月一回の服装髪型指導を実施する。再検査・継続指導の徹底のため、毎週月曜日実施する。	B	職員間の連携や共通理解がもう少し必要であった。生徒にも、オン・オフの切り替えを付けさせるような指導が教員側にも必要である。	身だしなみについては、家庭との連絡や教育方針・指導方針を理解してもらうための、広報活動・伝達が必要であった。
		マナーアップ	交通マナーの徹底	学期に1回は近隣の交差点等に職員を配置し朝の自転車マナーの向上を図る。	B	交通事故は、ここ5年間の数値では最小となった。しかし、スマートフォンの使用しながら運転で注意される生徒が増えた。	ながら運転は、道路交通法違反であると同時にとても危険であることを研修などを通して粘り強く指導していく必要がある。
	○情報化社会への対応	SNSの適切な使用に係る教育の推進	スマートフォンのセキュリティ対策	SNS等による危険について、セキュリティの観点から指導。業者による講話の実施。	B	ネット犯罪に巻き込まれるケースは少なくなっているように感じる。保護者も情報セキュリティに関する理解が深まっているように感じる。	PTA総会などで情報セキュリティに関する研修や学習会が必要である。

3 目標・評価

⑤ 綺麗で安心な学校をみんなでつくる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめ問題への対応	教育相談体制の充実	いじめ等生徒の問題の早期発見に努め、迅速に対応する。	各学年の担任会に教育担当者が参加し、生徒の情報を共有する。	A	日頃より情報交換を行うことで生徒の実態把握に努めたが、職員間の連携や共通理解が十分ではなかった。いじめ等の生徒の問題が発覚した場合は学年団等で対応を行った。生徒の抱える問題が複雑化し、生徒の対応が幼くなってきている。	いじめ対応やQJの活用に伴う活用の仕方等、職員研修や学習会が必要である。
	○清掃活動の充実	校内美化の徹底	日頃より掃除の徹底を図り、集中して取り組ませる。	掃除の重点目標を明確にし、掃除の徹底を図る。 大掃除時は全員体操着用で実施する	B	各掃除区域に職員の監督を配置し、掃除の徹底を行った。一部ではあるがゴミや持ち物等の放置が見られ、学習環境が整わない状況もあった。	所持品の管理を徹底するとともに、定期的な身の回りの整理整頓をする機会を設け校内美化に努める。
学校運営	○保護者との連携	保護者との情報共有促進	生徒一人一人の家庭環境や個性を十分理解しながら、本校の教育目標での指導をおこなう。	保護者ハンドブックを配布し、本校の教育目標を理解してもらい、学校に対する相談事などに丁寧に回答する。	A	役員の方々がお仕事の都合などで会議等の出席率が悪い中、事前の電話連絡や文書送達などを用い協議内容の報告連絡相談を密に行った結果、決定事項に対してスムーズな賛同を得ることができた。	年度当初に年間行事の精選をおこない、電話連絡や文書送達などでの報告連絡相談を行い、役員の方々の負担を少なくし、役職を早く引き受けてもらえるよう努める。

⑥ グローバルな視点を持ち、地域で活躍できる人材を育成する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○異文化交流	異文化への興味・関心	異文化に対する興味・関心を持ち、姉妹校である青岩高校との交流を図る	青岩高校との交流を継続し、実際に現地の高校生との交流を通して異文化を理解する。	A	今年度も1年生4名、2年生7名の計11名で青岩高校を訪問することができた。例年通りの熱意関係を受けて、本校の生徒たちも積極的に交流を図ることができた。	来年度も引き続き青岩高校への訪問を行う。より有意義な交流ができるよう、研修や交流の内容を吟味していく。
	○グローバル人材の育成	海外との交流に向けた取組	姉妹校との交流に向けて、異文化を理解する	事前に語学研修やテーマに沿った調べ学習などを実施する。	A	事前学習として、韓国についてのレポートの提出や2回の韓国語講座に意欲的に取り組むことができた。また、昨年に引き続き韓国語での学校紹介も行った。	これまで同様。事前学習としてテーマに沿ったレポート作成や韓国語講座を行う。Skype交流や韓国語での学校紹介など韓国語を実際に使用する場面を設定する。

⑦ 地域と連携して高校魅力づくりを推進する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○魅力と活力ある高校づくり	地域と連携して高校の魅力を高める取組を推進することができたか。	本年度3回チーム会議を開催し、PDCAサイクルにより取組みを充実させる。	コーディネーターと連携し、1年間を見通したプランを作成・実施する。 実施後、検証し、次のプランに活かす。	A	コーディネーターにはまめにキャンパス間や町役場に足を運び、連携に努めていた。全生徒対象にルーブリック評価を実施し、分析結果をもとに来年度の計画を作成できた。	ルーブリック評価の結果、特に生徒の自己有用感の向上や自尊感情につながる取組については、教育的見地から来年度の重要取組として計画する。
			ワーキンググループ活動について情報を整理し、当事業に位置付けながらブラッシュアップを図る。	従来の取組について情報を収集、整理すると同時に、チーム会議やWG活動を通して、外部の意見も聞きながら可能なものは計画に反映する。	B	本年度の成果と今後の課題について本年度最後のプロジェクトに位置付けることで本校が行ってきた地域連携事業を整理することができた。また、地域の方へアンケートを実施することで地域のニーズを掘り起こすことができた。広報不足により回収数は少なかった。	本年度の成果と今後の課題については本年度最後のプロジェクト会議で情報を共有し、地域の方からいただいた意見について、実施時期や施設・設備について検討する。実施する場合は広報を充実させて、地域への周知を図る。
			この活動について、地域に周知を図り、本校の教育に対する理解を促進する。	プレスリリースやHPでの案内など広報活動を充実させる。	A	大きなイベントについてはプレスリリースを実施した。また、HPも取組状況についてこまめに更新できた。	来年度は町報掲載など町代表委員の力を借りて、一層の充実を図る。

⑧ 校舎制による円滑な学校運営を実施する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●高校再編	授業の円滑な実施	職員減と出張等による自習時間をなくす。	出張予定を速やかに把握し、時間割の振替に反映させる。	B	時間割担当者と職員の連携により、早めの時間割予定を提示し、連絡を取ることでスムーズな運営が行えた。	今後も行事計画や出張等についての連絡を密にし、連携することで改善を図っていきたい。
		学校行事の円滑な実施	両キャンパス合同の学校行事を円滑に実施する。	合同行事の計画を早めに作成し、2週間前を目途に職員に周知する。	B	2年目の合同行事の実施は、ほぼスムーズに行っている。実施時期や時間帯等で調整が必要となる場合も出てきている。	来年度は、3学年完成年度となり合同行事も増加するため、両キャンパスの教務部の連携を図るとともに他の分掌との連携を図りながら早めに検討し対応していきたい。
		部活動の円滑な実施	放課後の時間を意識を持って大切に使用する。	放課後、すぐに部活に行けるよう勉強と基本的な生活の確立を心がけ、放課後居残りしないよう顧問とともに努力する。	B	各部活動に関して、出来ることを一杯協力・支援することが出来た。文化部中心の文化祭を開催することもでき、文化部への入部を増やし活性化に力を入れた。しかし、グラウンド・体育館と野球部、男女バスケ部の廃部により使用する部活が無くなり活性化しない状態はある。	令和2年度は、教職員が5名減になるため部活動の見直しと精選を行う必要がある。今現在、顧問数が不足している。女子バレー部は来年度より普通科キャンパスから商業科キャンパスに活動場所を変更する予定である。今後とも魅力あるキャンパス作りとして新たな部活動を検討したい。
学校運営	●高校再編	校務分掌等の円滑な実施運営	・教務、生徒指導については昨年度までの取組を活かし、本年度の課題を整理しより良い運営に取り組む。 ・完成年度を見通して、本年度は進路指導部の指導内容に係る情報共有を図り、指導方針を定めていく。	・高校入試については、本年度大きな変更があるため、情報収集・共有をまめに行う。部活動については利便性も踏まえながら、活動場所について整理する。 ・進路指導については他県の普通科・商業科併置校の進路指導についての情報を収集するとともに、必要に応じて先進校視察も検討する。	A	・高校入試については、管理職や両キャンパスの教務部を中心として原案を作成し、全職員で当たることができた。 ・部活動については、合同部顧問会議を行い、両キャンパスの顧問の話し合いの上で、来年度の実施形態を決めることができた。 ・進路指導に係る情報収集の一環として、京都府と大阪府の公立高校を訪問し、情報を収集した。新高校の生徒が3年生になり、進路決定の時期になることから、両キャンパスの進路指導規約を作成している。	・入試業務については、普通科キャンパスで実施することから、事務作業等の負担は普通科キャンパス職員の方が重く、バランスをとるのがなかなか難しいところである。事務作業以外の業務を商業科キャンパスで担うなど、目に見える形での対応を検討する必要がある。 ・部活動については今後の状況を踏まえながら柔軟に対応する。 ・進路指導に係るキャンパス共通の規定を完成させる。
		校舎間移動の円滑な実施運営	両キャンパスの書類のやり取り、公印の押印等は取りまとめを行い、送達便業務時に合わせて行う。	キャンパス間での必要書類については、早めの取り掛かりを呼びかけ、送達便の前日までに事務室に提出する。	B	・職員への周知が徹底しておらず、その都度の対応になってしまった。	・送達分については、発送日や到着予定日等を記した職員あて文書を作成し、周知徹底を図る。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務の効率化促進	・時間外勤務時数を減らす。 ・長期休業中の年休取得を推進する。 ・学校閉庁日の徹底を図る。	・本年度前半は、2019さが総文に係る業務量の増加が見込まれるが、時間外勤務時数は昨年度と同程度、後半は昨年度より5%減を目指す。 ・年休取得については昨年度の平均を1日上回る。 ・夏季休暇取得100%	B	・本年度前半の時間外勤務時数は約36時間で昨年度より6%増加したが、後半の時間外勤務時数は28時間24分まで昨年度より約8%減少した。 ・職員一人年休取得日数は昨年度平均が11.4日に対し、本年度は12.9日となった。 ・夏季休暇は全員3日間取得できた。	・1時間とか30分の短時間の年休取得が増えており、ワークライフバランスをとった働き方が徐々に浸透していると思える。さらに職場環境に配慮し、休みを取りやすい雰囲気を保ち、職員の活力を維持していきたい。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・校舎制による高校再編が進む中、学校運営にも様々な変化があった1年間であった。来年度より学校評価も変わるためその結果をどのように活かして、PDCAサイクルをきちんと回していくのかを検討する必要がある。  
・新しい事業である「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」については、公募の中から「夢T∞プロジェクト」という名称が決定し、計画通り実施できている。ルーブリック評価や学校評価の結果も踏まえながら、より一層魅力づくりに励みたい。  
・進路指導に関することや保健指導に関することなどは、例年同様充実した取組を行い、目標を達成している。また、生徒指導部の粘り強い指導により、SNS絡みの指導案件も減った。来年度も個々の生徒に対応して、じつりと丁寧に指導を行う。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目